

# 都市再生整備計画

あ が ほ えきしゅうへん ち く  
JR英賀保駅周辺地区

ひょうご ひめじ  
兵庫県 姫路市

令和2年8月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	姫路市	地区名	JR英賀保駅周辺地区	面積	1.8 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度				

**目標**  
 大目標:安全・安心で快適なJR英賀保駅周辺の再生  
 目標1:駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり  
 目標2:快適で安心して暮らせる、バリアフリーのまちづくり

**目標設定の根拠**  
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)  
 本市では、姫路駅を中心に各種交通機関や商業・業務機能が集中し、播磨地域における社会経済活動の中心地として発展してきた。しかしながら、モータリゼーションの進展等を背景とした市街地の拡大、少子高齢化に伴う人口減少等を背景に中心市街地の空洞化が進み、低密度な市街地の形成等による都市機能の都市の低下が懸念される。こうしたことから、中心市街地において、姫路駅周辺都市再生整備計画事業、公共が保有する低未利用地を活用した文化交流施設や県立病院と民間病院の統合、手柄山中央公園の再整備により、都市機能の拡散防止及び市民の生活利便性の維持・向上を図っている。  
 一方、既成市街地外縁部の住宅地では、人口減少、居住者の高齢化が顕著であり、人口密度を維持、経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る必要がある。このため、公共交通(駅・バス停)を拠点として、都心部や地域生活圏とのネットワーク化や公共交通網の充実を図りながら、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に取り組むとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の増加に取り組む。  
 公的不動産の活用策として、郊外移転した鉄道車両基地跡地を活用し、民間病院と統合した新たな県立病院や文化交流施設の整備を行うことで、都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図る。

**まちづくりの経緯及び現況**  
 ・JR英賀保駅は、1日に4,560人(H29年)の乗車人員が利用しており、当地区周辺は住居系土地利用となっている。また、通勤通学駅として神姫バスが6路線運行されており、交通結節機能を有している。  
 ・JR山陽本線が歩行者交通、地区を南北に分断されている。  
 ・駅南側には、商業施設や金融機関、医療機関等が分布している。  
 ・駅北側で事業中の土地区画整理事業等により、道路や宅地が造成され、都市基盤施設と宅地の利用増進が一体的に進んでいき、健全な市街地が形成されている。  
 ・南駅前広場に加え、土地区画整理事業により北駅前広場が整備され、バス、タクシーや送迎車が乗り入れることができる。

**課題**  
 ・南北を移動する際には、駅西側の人道跨線橋を利用しているが、エレベーターが無いうえに、通路幅員も狭小であるため、バリアフリー経路が分断されている。  
 ・人道跨線橋を利用せず、周辺の狭小で危険な踏切を利用している住民が多い。  
 ・駅北側に改札口がないため、公共交通におけるアクセスが脆弱である。

**将来ビジョン(中長期)**  
 ○姫路市総合計画(H21.3)・・・生活道路の整備を促進し、地域生活圏相互の交流や都心部への移動利便性を向上させることとしている。  
 ○姫路市都市計画マスタープラン(H27.3)・・・歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創造など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指すこととしている。  
 ○姫路市総合交通計画(H28.3)・・・当駅は重点的に整備をすすめる鉄道駅と位置づけており、駅南北の移動円滑化を目指すこととしている。  
 ○姫路市立地適正化計画(H30.3)・・・本地区は立地適正化計画による都市機能誘導区域の地域生活拠点であり、拠点を核とした多核連携型都市構造の構築を目指すこととしている。  
 ○姫路市バリアフリー基本構想(H23.3)・・・本地区はバリアフリー基本構想による重点整備地区と位置づけており、特に優先してバリアフリー化事業の実施が必要とされている。

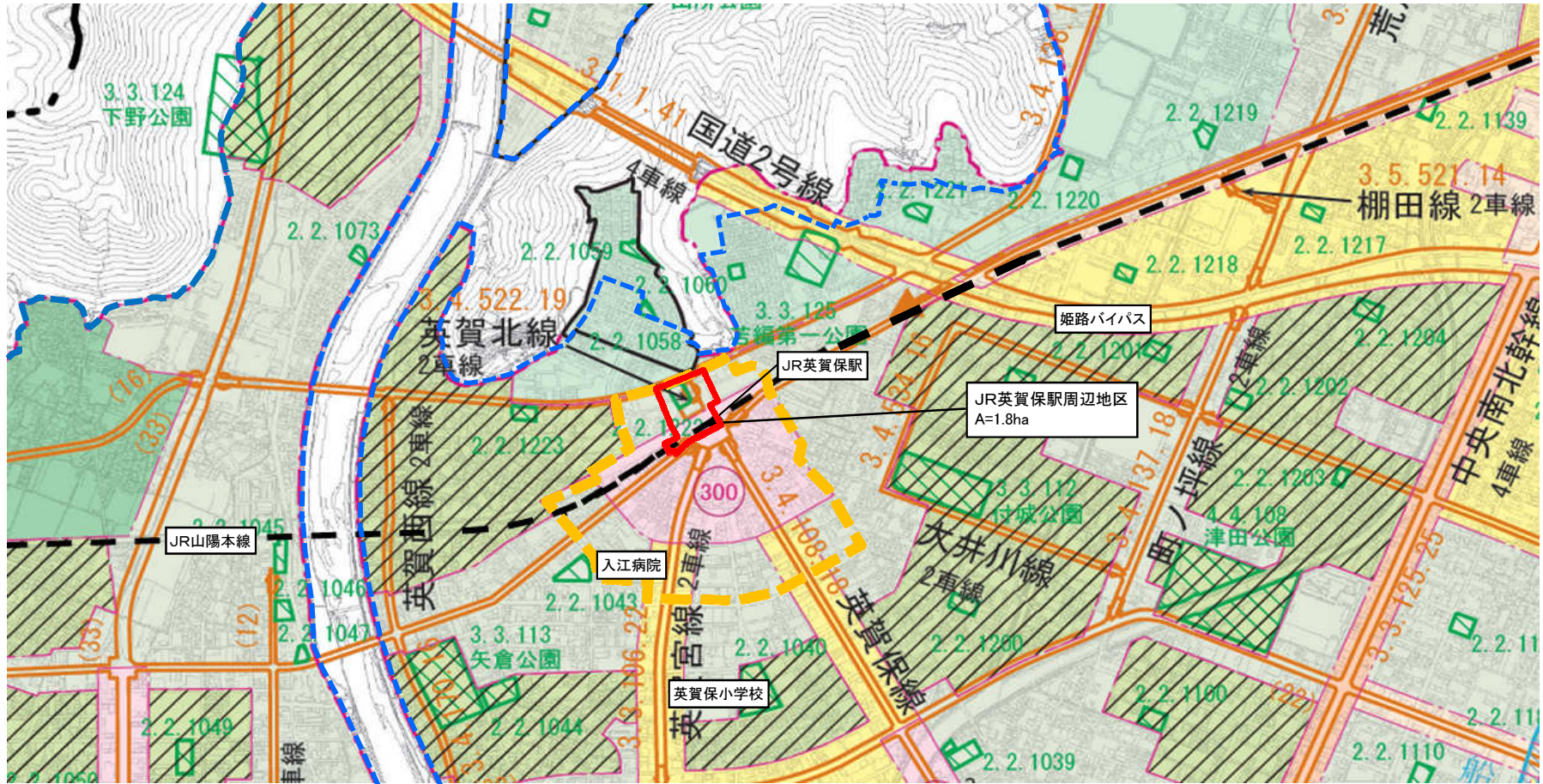


計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1 駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり】                      ◇JR英賀保駅は1日に4,560人(H29年)の乗車人員が利用しており、駅北側には駅前広場が整備されているものの、改札が南側にしかないため、北側からのアクセス改善が課題となっている。北側からのアクセス経路と北改札口(関連事業)を一体的に整備し、地区北側の交通利便性の向上を図る。                      ◇本市では、立地適正化計画により、鉄道駅等を核とした、多核連携型の持続可能な都市構造の構築を目標としており、本地区においては、英賀保駅を核に地域生活拠点にふさわしい活力ある市街地を形成するとともに、公共交通の利便性を高め、自動車交通から公共交通への転換を図る。</p>	<p>地域生活基盤施設:英賀保駅自由通路(人工地盤)                      高質空間形成施設:英賀保駅自由通路エレベーター(歩行支援施設)                      関連事業(都市・地域交通戦略推進事業):JR英賀保駅北改札口整備事業                      関連事業:英賀保駅周辺地区土地区画整理事業</p>
<p>【整備方針2 快適で安心して暮らせる、バリアフリーのまちづくり】                      ◇本地区は、JR山陽本線により市街地が南北に分断されており、南北を移動する際には、駅西側の人道跨線橋を利用しているが、エレベーターが無い                      うえに、通路幅員も狭小であるため、バリアフリー経路が分断されている。自由通路ならびに車いす搭載可能のエレベーターを整備し、快適でバリアフリー化された歩行者空間を確保するとともに、南北市街地の一体化を図る。                      ◇本市では、バリアフリー基本構想により、「だれもが安全で安心して快適に移動できる共生のまちづくり」を基本理念としており、本地区においては、重点整備地区としてすべての人にやさしいユニバーサルデザインの視点に立って、生活関連経路のバリアフリー化を推進する。</p>	<p>地域生活基盤施設:英賀保駅自由通路(人工地盤)                      高質空間形成施設:英賀保駅自由通路エレベーター(歩行支援施設)                      道路:英賀309号線                      関連事業(都市・地域交通戦略推進事業):JR英賀保駅北改札口整備事業                      関連事業:英賀保駅周辺地区土地区画整理事業</p>
その他	

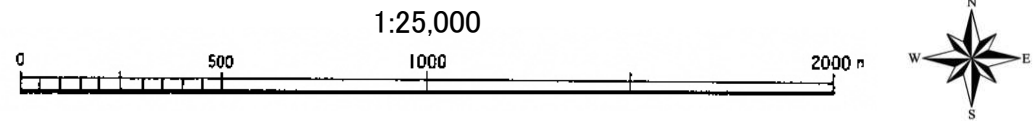


JR英賀保駅周辺地区(兵庫県姫路市)

面積	1.8 ha	区域	飾磨区山崎の一部
----	--------	----	----------



- 都市再生整備計画の区域 (1.8ha)
- 都市機能誘導区域 (約1,077ha)
- 居住誘導区域 (約8,379ha)





JR英賀保駅周辺地区(兵庫県姫路市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	安全・安心で快適なJR英賀保駅周辺の再生 ・駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり ・快適で安心して暮らせる、バリアフリーのまちづくり	代表的な指標	1 JR英賀保駅乗車人員の増加 (人/日)	4,623 (H29年度)	→	4,750 (R7年度)
			2 歩行者交通量の増加 (人/日)	1,039 (R1年度)	→	1,100 (R7年度)

